

平成 28 年 1 月 27 日

一類感染症に関する検討会報告書 骨子（案）

1. 本検討会の背景及び経緯
2. 西アフリカにおけるエボラ出血熱アウトブレイクへの対応の総括
（行政対応や各分野における対応のまとめ）
3. 今後の課題とそれに対する対応の方向性
 - （1）特定及び第一種感染症指定医療機関に求められる要件
 - ・ 隔離病床における管理だけでなく、どの程度の医療の提供が必要か
 - ・ 医療内容等に応じた感染症指定医療機関の設置基準
 - （2）感染症指定医療機関における医療提供のあり方
 - ・ 隔離病床においても集中治療が可能な体制の確保（人員、設備）
 - ・ 医療支援チームの派遣・受入れに関する仕組みの検討
 - （3）一般医療機関における対応
 - ・ 一般医療機関の医師向けの研修の推進
 - ・ 健康監視中の患者が直接医療機関に来た場合の対応
また、患者が検査陽性だった場合の当該医療機関における対応
 - （4）情報公開のあり方
 - ・ 健康監視者や疑似症患者の個人情報への配慮
 - ・ 外国人への対応、疑似症の場合で通訳のいるケースへの対応
 - （5）ウイルス性出血熱の病原体を保持していないことの確認方法（退院基準）
 - ・ エボラ出血熱の回復者に関する最新の知見を踏まえた見直しの必要性
4. 引き続き検討が必要な課題
 - ・ 研究のあり方
（危機管理に係る準備と対応に関する研究、複数年度にわたる研究体制の確保）
 - ・ 予算のあり方
（危機管理に係る予算について通常と異なる枠組みの必要性）